



事業承継 ~次世代へのバトンパス~

Vol. 2

JA全農では、日本農業の最重要課題である世代交代を進めるための「事業承継ブック」を発行した。2017年は団塊世代が70歳代に突入していく年であり、次世代へのバトンパスは待たなしの状況だ。この課題に向き合う「家族」とそれをサポートするTACの姿を追う。

事業承継ブック
公開中



TAC(タック)とは、「地域農業の担い手に向くJA担当者」の愛称です。

福井県 JA花咲ふくい

広島県 JA広島中央



JAの平賀係長④から「事業承継ブック」を受け取る晋治さん

祖父が開墾した畑、山に帰したくない

東広島市豊栄町で川手晋治さん(30)は、母方の祖父・岡田米一さん(88)から農業を引き継ぐことを考えている。山間にある1.5畝の畑で、生産技術や営農の歴史などを教えてもらいながら、ゴボウ、サトイモ、キャベツ、白ネギなどを栽培。58歳の年齢差がある「じいちゃん」と孫は今、事業承継に向き合い始めた。

2011年秋、晋治さんは脱サラして就農。13年から青年就農給付金を受け、経営が成り立つよう販路開拓に挑戦してきた。

就農理由は、その畑にあったという。「全部、じいちゃんが新たに開拓した農地。当時の苦勞を想像すると、誰も受け継がずに山に帰してしまうことは考えられなかった。高齢のじいちゃんから、栽培技術を教えてもらえるのは今しかない。ここで決断しなければ絶対に後悔すると思った」と話す。

米一さんは福山市出身。10代後半で海を渡り、満州で終戦を迎えた。ソ連によるシベリア抑留と強制労働を経験し、日本への帰還は戦

後、数年が経ってのことだった。その後、知人の紹介で豊栄町へ。機械もない中、山を切り拓き、少しずつ開墾したのが今の畑だ。そこで約60年、葉タバコや野菜を栽培してきたという。

向き合って気づく 引き継いでいないもの

3月上旬。その畑へ、JAの平賀八州係長が「事業承継ブック」を持ってやってきた。晋治さんは、あるページに目を止めた。事業承継では何を継ぐのかがテーマになっていて、①資産承継(モノ、お金)②経営承継(人、情報、顧客)——が整理されていたため、自分は何が継いでいて、何が継いでいないか考えた。

栽培技術など「人」や、家の歴史など「情報」に関わることは、比較的引き継いでいた。しかし祖父から孫へ、親の世代を超えて引き継ぐため、まだ「資産承継の話は全くできていない」と晋治さん。

また栽培技術や開墾の歴史などでも、実直で口数の少ない米一さんは多くを語らないが「まだまだ聞いておきたいことが山ほどある」と晋治さんは言う。

引き継ぐ側にJAから働きかけを

相続・事業承継で、JAも体制づくりを急ぐ。営農販売部営農支援センターが集落営農法人など担い手に向く体制を整備。さらに14年には金融部に「相続支援室」を設け、資産承継などの相談にのっている。今後は「相続の発生後も農地が活用されるよう信用・営農部門がさらに連携して農地の受け手を探し、耕作放棄地を防ぎたい」と、JAの河野孝行代表理事組合長は強調する。

JA広島中央会は3月に家族経営承継のセミナーを開催。これからJA広島中央を含む県内全JAに合計250冊の「事業承継ブック」を配布し、活用してもらう予定で、JAの取組を県域連合会も全面的にバックアップする。

その一冊を受け取った晋治さんはこう話す。「家族間で具体的にどう世代交代したらいいか悩んでいる人には役立つ冊子だと思う」。家族が話し合う場を設け、ライフプランを立て、経営実態を把握する……。相続が発生する前に、積極的に経営を引き継ぐ作業となるだけに、「引き継ぐ子ども側が興味を持ち、主体的に取り組み始めるように、JAからも働きかけてほしい」と期待する。



祖父の米一さん⑥と晋治さん④。「OKファーム」は二人の名前からとった



作業小屋でネギの皮をむきながら、米一さんの話に耳を傾ける晋治さん

事業承継STEP

- STEP 1 作成のルールを確認する
親子で話し合う際の作成ルールを共有し、協力しながらすすめる土台を作りましょう。
- STEP 2 ライフプランを立てる
農業だけに限らず、「家族のこと」「お金のこと」について今後のライフプランを考えましょう。
- STEP 3 経営の実態を把握する
資産や労働力、機械設備に何があるかなど、家の現在の農業経営の実態を知りましょう。
- STEP 4 事業承継タスクを整理する
「人」「モノ」「お金」「情報」「顧客」を承継するために、具体的なかつ実効性のあるタスクを考えましょう。
- STEP 5 事業承継計画を作成する
着実に事業承継を実行できるように、「いつまでに」「何をやるか」の10年計画を立てましょう。

「事業承継って何からどうやれば良いの?」「そもそも事業承継って何をすること?」といった声が多く聞かれることから、事業承継STEP 1~5を定めました。このSTEPに基づき、親子間で着実に話し合いを進めていきます。また、親子だからこそ、感情的になったり、熱くなったりすることもあるでしょう。そんな時はTACなどのJA職員を第三者として入れ、冷静にかつ客観的な話し合いをスムーズに進めましょう。

TACの役割

- ①地域農業の担い手に訪問してご意見・ご要望をうかがい、誠実にお応えします。
- ②地域農業の担い手の経営に役立つ各種情報をお届けします。
- ③地域農業の担い手のご意見をもち帰り、JAグループの業務改善につなげます。

TACの由来

Team for Agricultural Coordination
JAグループが一体となって地域農業をコーディネートします。

Tとことん、A会って、Cコミュニケーション!!

営農販売企画部 TAC推進課
TEL: 03-6271-8276

全農